2013年3月　第37号

会　報

©慶応義塾

公認会計士三田会

会報

公認会計士三田会

目　次

ご挨拶 …… 1
公認会計士三田会会長／佐竹正幸

福沢精神の継承 …… 2
商学部長／樋口美雄

総選挙を振り返って …… 3
中曽根弘文

会計・監査新時代に向け三田会のリーダーシップに期待 …… 4
大塚拓

会計士と慶應と私 …… 5
廣野清志

会計士として一年を終えて 監査＋α …… 6
奥山健人

会計士のタマゴ＋女性の社会進出？ ―今、思うこと …… 7
富取祐香

福沢先生の教えを胸に　公認会計士として …… 8
今野健志

公認会計士試験の状況 …… 9
連続38年間、合格者数首位を堅持

公認会計士試験　大学・年度別合格者数一覧表 …… 10

総会報告　冬季研修会報告　総会懇親会・新人歓迎会 …… 11

秋季研修会・懇親会報告 …… 12

ゴルフ報告 …… 13・14
「大学対抗で慶應が初優勝!!」

役員一覧 …… 15

公認会計士三田会・会則 …… 16

公認会計士三田会会長
佐竹　正幸
昭和46年商学部卒

ご挨拶

公認会計士三田会は1977年9月に発足し、今年で36年目になりました。それ以来公認会計士試験合格者の増加と塾員の2012年試験合格者数は161名と連続38年間、大学別で首位を保ったことから会員数が急増し、職域三田会でも最多の会員数になっています。

本会の最近の活動は、①3月の総会及び研修会並びに新人歓迎会兼懇親会、②秋季研修会及び懇親会が2大中心行事になっています。本会発足以降10年ほど前までは総会時の懇親会は50名弱の参加者でしたが、最近は200名以上の参加者があり、また、毎年若い会員の出席も増加していて、準備会である幹事会・世話人会等の出席者だけでも30名を超えることも稀ではなくなりました。大変喜ばしいことと思います。

そのほかの活動はゴルフ会を年3回開催(CPA慶早対抗ゴルフ、CPA全大学対抗ゴルフ、公認会計士三田会懇親ゴルフ)し、昨年はCPA全大学対抗ゴルフ(十月会と称しています。)で、グロス優勝、ネット優勝、男子個人優勝、女子個人優勝と前代未聞の完全優勝を果たしました。他大学との対抗ゴルフは上位数人のスコアで競われるので、戦力にならない方の参加も他の人の足を引っ張ることにはなりませんので、是非積極的に参加していただければと思います。また、公認会計士三田会懇親ゴルフはご家族の参加者も多く、和気あいあいと懇親を深めることができています。

そのほか、他大学の会計士会など関連団体とのお付き合いは主に会長、副会長を中心に行っていますが、公認会計士稲門会と法曹三田会とは合同幹事会レベルで合わせて数十人の規模での懇親会を行っています。

主に研修会の準備は卒業年度10年ごとの世話人を決め、それに新人(公認会計士試験合格者)世話人を加えた世話人会を中心に準備、実行をお願いしています。世話人会や幹事会は1時間程度で終わることとし、毎回懇親会を開催して懇親を図っています。義塾三田キャンパスの会計関係科目を担当されている園田教授、高久教授に幹事会等にご参加いただき、情報交換も密にさせていただいています。今年度は世話人会、幹事会、実行委員会等繁忙期を除いてほぼ毎月開催しているような状況です。ご参加ご希望の方はいつでも事務局、幹事、世話人、実行委員等にお申し出いただければ幸いです。

会長の任期は2年で、私は今年の総会で後任者にバトンタッチしますが、新年度では新人世話人を中心とした懇親会を開催し、さらなる若手による会の活性化につなげていただければとの期待をしたいと思います。会員各位におかれましては、今後も公認会計士三田会の諸活動にご参加頂ければ幸いです。

商学部長
樋口　美雄
昭和50年商学部卒

福沢精神の継承

公認会計士三田会の皆様におかれましては、平素より慶應義塾に対し、物心両面でご支援いただき、誠にありがとうございます。とくに公認会計士を目指す学生たちに心温まるご指導・ご助言を賜り、心より御礼申し上げます。

お蔭さまで、今年度も160名を超える慶應義塾出身者が公認会計士試験に合格できました。これにより、大学別合格者数において38年連続で首位の座を守ることができました。こうした実績は容易に達成することはできません。本人たちの努力があったことはもちろんのこと、公認会計士の皆様の活躍が後進たちの目標となってその努力を引き出すとともに、皆様からの適切なご指導・ご助言があったからこそ、成果を出すことができたものと感謝申し上げます。

今年は明治6年（1873年）に福澤先生がブライアントとストラットンの記した「学校用ブックキーピング」を翻訳し、「帳合之法」初編を出版されてから、ちょうど140年目に当たります。当時、「大福帳」さえ見たことがなかった福澤先生は大変な創意工夫を重ね、日本人の理解に配慮して、随所に巧みで平易な訳を行っています。数字にしましても、従来の定位文字を用いた記数法に代えて、十進法で表記されましたが、この方法が後に世間一般に広く使われるようになりました。そしてさらに第二編で紹介された複式簿記の重要性は言うまでもありません。

福澤先生の本書を翻訳した思いが序文に記されています。日本では昔から学者は偉ぶって商売なんてものは品位の高い者がする仕事ではないと考え、崇高な空理空論だけを展開している。他方、大商家の帳簿の付け方を見ると混乱しており、棚卸に店中総掛かりでやっても2カ月を要し、それでもわからないことが多いにもかかわらず、商売に学問はいらないといっている。金持ちは瓶に金を入れて地面に埋めておくだけで、世の経済活動を勉強して商売を大きくする方法を知らない。「帳合之法」を学ぶことで学者も自らの愚かさを知り、金持ちも自分自身の賤しくないことを悟って、双方ともにこの実学を勉強することで、わが国の産業を振興し、国力を増すことができると、「実学のすすめ」を説いていらっしゃいます。

本書の出版以降、福澤先生は直接、会計学に取り組むことはありませんでしたが、代わりに門下生たちに商社の経理を総攬させたり、出資をして簿記講習所を開設したりして、日本の会計制度の改革や普及をリードされました。

近年、世界的に企業の不正経理が発覚し、会計監査の信頼を揺るがしかねない事件が続いております。他方、証券市場における資金の流れもグローバル化し、日本企業への海外投資家による出資が増え、会計制度も国際基準に調和させていかなければなりません。福澤先生が考えたように、時代の要請に適した会計制度を構築し、的確に運用していくことは個別企業や個別投資家の利益だけではなく、社会全体の発展や成長にとって、喫緊の課題になっております。わが国では高度専門人材の存在が十分評価されてきたとは必ずしも言えません。しかし経済が高度化した現在、専門人材の果たすべき役割はますます大きくなっています。公認会計士は企業から独立した存在でなければなりませんが、慶應社中の同志が引き続き勉強会等を通じ、連携して自己研鑽を積み、後進たちの育成に力を注いで、社会の発展に貢献していただくことを願っております。

参議院議員・
参議院自由民主党議員会長
中曽根　弘文
昭和43年商学部卒

総選挙を振り返って

公認会計士三田会の皆様におかれては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平成24年度の公認会計士試験合格者の新入会員の皆様、合格おめでとうございます。慶應義塾大学の出身者の方が、旧試験制度から38年間連続して、公認会計士試験の合格者数で首位となったと知り、同窓として大変喜ばしく思います。

私は平成22年の参議院議員選挙で5期目の当選を果たし、現在参議院自由民主党議員会長として活動しております。

昨年12月には衆議院総選挙に勝利し、政権奪還を果たすことができましたが、我々自由民主党は国民の期待に応え、多くの課題を解決し、誇りある日本を取り戻すために、政権与党として全力で取り組んでおります。現在の日本の状況は、経済、外交・安全保障、教育、そして大震災からの復興においても極めて厳しく困難な状況にありますが、一致結束してこの危機を突破していくことこそ、我々が果たすべき最大の使命であると考えております。

私自身は昭和61（1985）年に参議院議員に初当選してから、今日まで文部大臣や外務大臣を務めましたが、政治活動の根幹として「心豊かな人づくり・活力あふれる国づくり」を掲げて活動してまいりました。

教育は、国家や社会の将来の発展を左右する、未来へ向かっての投資です。子供たちが夢や希望を持てる、また他国からも尊敬される国づくり、郷土や国に誇りを持ち、たくましい自立した真の日本人づくりにこれからも取り組んでまいります。そして、失われつつある「日本の心」を取り戻し、伝統や文化を尊重し、道徳心の高い「教育・文化国家」、「道義国家」を皆さんとともに造っていきたいと思います。

また、活力ある社会を取り戻すために、何よりも景気を回復し、科学技術を振興し、産業を活性化していかなくてはなりません。そして、経済を始めとした国力を高め、主体的・積極的な外交を進め、国際社会をリードし、平和と繁栄の一翼を担う力強い日本をつくり子や孫の世代へと引き継いでいくことが現代を生きる我々に課せられた責務であると考えております。

いま我が国は新しい時代へ向けての大きな岐路に立っていますが、世界の国々と競争しながら協調し、永年にわたる国民の力によって築き上げてきた国際的な信頼と信用を失うことがあってはなりません。これは国家間においてばかりでなく、企業活動においても同様であります。ボーダーレスな企業活動の中で、国際社会の最先端で活動する企業の信頼性を担保する重要な役割を担っているのは会計制度であります。公認会計士の皆様の仕事は、企業の国際化と情報通信技術の発達などにより、一層高度化、複雑化するとともに、活動の分野も企業ばかりでなく公務分野にまで及んできており、会計制度の充実は社会の発展にとって益々重要になってきております。各国の会計制度も新しい時代的要請に応えられるものへと進化させていくことが必要であり、その主役を担う公認会計士の先生方の一層のご活躍が期待されています。国会においても皆様の声を反映し時代に即した制度改正を進めていきたいと考えております。

最後になりますが、公認会計士三田会のますますのご発展と会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

衆議院議員

大塚　拓

平成9年法学部卒

会計・監査新時代に向け 三田会のリーダーシップに期待

公認会計士三田会の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、難関である公認会計士試験を突破し、新たに公認会計士三田会に入会された皆様、洵におめでとうございます。

我らが慶應義塾大学は、長年にわたり、公認会計士の最大の出身母体であり続けています。平成24年度の公認会計士試験においても、大学別合格者数において、慶應義塾大学がトップの座を維持したと伺っております。確固たる専門知識と、高度なプロフェッショナリズムに裏打ちされた公認会計士は、我が国経済の根幹を支える存在です。民間経済の発展を重視し、複式簿記を我が国に導入した福沢諭吉先生を創設者とする慶應義塾がこの分野をリードしていることは、塾生の誇りでもあります。

実は、私自身、大学在学中に一時、公認会計士試験を目指していたことがあります。友人たちがサークル活動に精を出すのを横目に、黙々と電卓をたたいていた日々が昨日のように思い出されます。結局、3年に進級するころから政治の道を志すようになり、資格取得に至らず方向転換をしてしまいましたが、このころ身につけた会計の素養は、その後金融機関に就職し、また衆議院議員として様々な経済政策・税制・会計制度などを議論する際に大いに活かされ、私の生涯の財産となっています。

近年では、企業の財務活動の複雑化や、経営戦略の多様化が進展する中で、公認会計士の活躍の場がさらに拡大することが期待されているところです。企業や社会の受け入れ態勢や、制度面の整備などがなかなか追い付かない実情を踏まえ、公認会計士試験の合格者数は抑制の方向に転じましたが、財務会計の専門家に対する社会的ニーズの高まりという趨勢は今後も不変だと思われます。

一部の企業による不祥事案の発生などに伴い、監査制度の在り方を見つめなおす必要性も指摘されています。また、国際的な会計制度・監査基準のコンバージェンスという趨勢のもと、国内制度を国際基準に適合させていくことはもちろん、我が国制度で国際的に優位性を有するものを積極的に海外に発信していくことや、国内企業が不利益を被らないように制度・実務両面で対処していくことも大変重要です。公認会計士・監査制度をめぐる環境が大きな変化の時期を迎えている昨今、会計・監査の世界で中核的地位を占める公認会計士三田会の皆様が、先頭に立って、新たな時代を切り拓いていただくことを、心から期待いたしております。

昨年暮れには、第2次安倍政権が発足いたしました。これまでのところ、市場や、外国通貨・金融当局との円滑なコミュニケーションのもと、各種相場は順調に推移しています。世の中にも、景気回復への期待とともに、明るい兆しが見え始めてきたようです。しかしながら、日本経済や、外交・安全保障の実態は、まだまだがけっぷちで踏みとどまったに過ぎない状況です。年末の総選挙実施に伴い、本来であれば昨年中に確定していなければならなかった平成25年度本予算・税制改正などの審議も遅れました。本予算の執行が遅れることや、外国為替も含め、各種施策が実体経済に波及するには一定の時間が必要であることなどから、当面の需給ギャップ対策として、大規模な補正予算も策定いたしました。いま、見え始めた明るい兆しを、今度こそ本格的な経済再生につなげなければならないという認識を共有し、政府・与党を挙げ、年末年始も返上して全力で走り続けているところです。公認会計士三田会の皆様には何卒ご理解、ご支援を賜れれば幸いに存じます。

末筆になりますが、公認会計士三田会の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝でのご活躍を、心より祈念いたします。

廣野　清志
平成9年総合政策学部卒

会計士と慶應と私

私が旧二次試験に合格したのは平成7年、短答式試験が導入された年でした。論文式試験の試験会場である早稲田大学の教室に冷房が入るのか否か、受験生の間で議論が交わされた年でもあります。（結果としては入りました。）思えばずいぶんと経ったものです。

ちなみにこの年は、慶應と早稲田の合格者数がぴったり同数でした。ということは私がこの世に生を受けていなければ、○年連続合格者数首位!も危うかったわけでして、慶應からもっと感謝されてもいいのではとずっと思っております。

遡って私と慶應とのかかわりは昭和(!)62年の普通部入学から。その後いわゆる塾高を経由し、総合政策学部に4期生として入学、そして無事卒業。

初めての就職先は現有限責任監査法人トーマツでした。そしてその後映画会社に転職し、今から8年前に独立開業とあいなりました。

会計士三田会には、独立後、幹事をしている友人に誘われる形で参加し、その際、輝かしく活躍している先輩とお会いできたため会の面白さに気づき、その後は定期的に参加させて頂いています。特段お役に立てているわけではありませんが。

ふと気づくと私もそこそこの年齢になってきており、自覚は乏しいものの、明らかに若手といったジャンルではなくなってきました。会計士三田会に参加されるのは大先輩も多いですが、若い方もなかなかどうしています。こういった会にそういった年代から参加するからに、当然ながら意識の高い方が多いです。そのような若い方々と触れ合う機会を持てることも大きな魅力と感じています。

またこうして老若男女あるものの、そこは同じ義塾出身、独立自尊、ペンは剣よりも強し、天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず…といったものを何らか同じくしているためでしょうか、必要最低限のバックボーンを共有しているように感じます。

そしてお会いするごとにオーラを増していく先輩がいます。かたや、こちらがぼやっとしている間にグングン突き進んでいる後輩もいます。いずれもとても刺激になります。

ところで、先ほど軽く触れましたが、私は映画業界に身をおいたことがあります。なぜか?単純に映画好きだったからです。劇場公開される映画には先付といった、配給会社のロゴのようなものがあります。私が選んだのは、学生時代に観た作品の先付デザインに魅せられた会社でした。監査法人を退職したのも、監査が嫌になったのではなく、この会社に入りたかったからです。セクションとしては経営企画を選択しました。そして日々、さまざまな社長からの特命案件を担当しました。鞄持ちをしながら普通には会えない方々にもたくさん会いましたし、トップの尋常ではない気苦労にも数多く接してきました。どれも今では大きな財産です。

この会社は当時、小規模ながら就職人気ランキングで比較的上位に入るほどの人気がありました。狭き門の映画業界ですから、当然と言えば当然です。そんな中、入社を目指してルール通りの活動はしたものの、後から聞けば、なぜ会計士が我が社にといった驚きもあったようで、結果として採用は当然の成り行きでした。と、長くなりましたが、会計士ってそういうことです。諸先輩方のおかげで資格自体の信頼性が抜群な上、さらに自分を磨けば自分がやりたいことを何でもできます。と言うと言い過ぎかもしれませんが、自分が好きなことにプロとして関わることができます。しかも本人の努力次第では何歳になってでも。これはものすごいことです。合格者のみなさん、いい試験を受けましたね。この資格に感謝しましょう。今回本稿を書いてみて、私も改めて感謝することにします。

以上、最後までお読み頂いた方、有難うございました!

奥山　健人
平成23年法学部政治学科卒

会計士として一年を終えて 監査+αへ

はじめに

会計士三田会の皆様、こんにちは。この度、三田会の会報を私のような未熟者が執筆させていただくことになりまして大変恐縮です。

簡単に自己紹介をさせて頂きますと、私は、法学部政治学科の3年時に会計士の勉強をはじめまして、2011年の論文式試験に合格しました。現在は大手監査法人で主に国内企業をメインに監査を行なっております。

本稿は、法人に勤め始めてからちょうど1年が経過した2月頭に執筆させて頂いております。以下、私が社会に出て一年間を終えて感じた事を執筆させて頂こうと思います。

「なりたい会計士」から「ならなければいけない会計士」へ

私は就職活動の際に、理想な会計士像とは、会計のプロフェッショナルとして監査のみならず、クライアントからの会計の相談はもちろんのこと、税務やIPOなどの相談事項に答えられる「企業の医者」と言われるような会計士であることだと思います、と答えました。この考えの根本には、会計士=監査という考えがあったため+αのことが出来るのであれば、それは他の会計士とは差別化された素晴らしい会計士であると思っておりました。

しかし、法人に入り一年間働いて思ったことは、会計士は監査だけではなく+αのスキルが必須であるいうことです。たしかに、会計士の主たる業務は監査であることには違いないですが、クライアントが監査だけではなく、税務やIPO、デューデリジェンスなどの非監査業務も当たり前のように期待しているということです。よって、私が当初思っていた理想的な会計士像というものは、クライアントからすれば最低限の会計士像であり、そうならなければならないということを知りました。とはいえ、働いてまだ1年の私には+αの部分を習得する前に、まずはしっかりと監査を出来るように精進しようと思っています。なぜなら、監査は単純な知識だけでなく職業的専門家としての判断を要する機会が多分にあり、この判断は監査法人での仕事を通じてでしか習得できないものだと思うからです。これから会計士として、まずはしっかりと監査を出来るようになり、それから+αのスキルをつけ「企業の医者」と呼ばれるような会計士になりたいと思います。

三田会での若手中堅層の空洞化について

私は現在、新人世話人として公認会計士三田会の幹事会に参加させて頂いております。また、私は高校時代に慶應義塾高等学校で應援指導部に所属していたため、卒業してからは應援指導部のOB会に積極的に参加し諸先輩方と交流を持っておりますが、どちらの会でも感じることは、若手中堅層が少ないということです。

先日、早稲田大学の会計士会である稲門会の若手の方と話した際に、慶應はつながりが強くていいね、という言葉を頂きました。他にも他大学の方々から慶應の繋がりの強さについて羨ましがられることがあります。慶應義塾の繋がりのは会計士業界のみならず、どの業界でも他大学よりも強いと思います。そのため、若手にとって三田会は諸先輩方から学ぶ最高の機会であると思います。会計士三田会には、監査法人のパートナーの方々、協会の活動をやっていらっしゃる方、自分で開業している方や、一般事業会社で働いている方々など様々な諸先輩方がいらっしゃり、普通に働いているだけでは聞けないような貴重なお話をして頂けます。このような機会が多く用意されているのは慶應義塾を卒業したからであり、それを活かさなくては慶應義塾に入った意味がない。こんな私の戯言を読んだ若手の方が一人でも多く会計士三田会に参加して頂ける事を願っております。

最後までお読み頂きまして、ありがとうございました。

富取　祐香
平成24年経済学部卒

会計士のタマゴ+女性の社会進出?
－今、思うこと

働く女性として、将来に向けて

私が会計士を目指したきっかけは、一言で言えば、負けず嫌いだったことである。実は1位になりたいという気持ちはたいして強いわけではなく、自分の決めた判断基準において他人に負けたくないというだけだったということに気づいたのは最近のことで、当時はとにかく、男性と違う扱いをされることが嫌で（今でも嫌だけれど）それが多少でも少なさそうな仕事⇒資格⇒医者・弁護士より自分に向いていそうだから会計士、というくらいの決め方だった。もうひとつの理由は、人に依存するのが嫌いで、たとえば出産などで一度仕事を離れたとしても、いつでもきちんと自力で稼げる自分でありたかったこと。つぶしがきくことは、間違いなく魅力のひとつだった。

しかし、あるときたまたま機会があって、「結婚・出産しても働きたい」という状態が、女性の社会進出と言われるような観点から本当に十分なのか、ということを考えるようになった。「働きたい」という曖昧な言葉を使うとき、多くは、専業主婦ではなくて社会に関わり続けていたい、という意味で使われていると思う。こういった発想は「男性は仕事中心、女性は家庭中心」という前提にもとづいているとも取れるけれども、このような感覚が一般的であるという現状は自分で変えられる範囲を超えている。じゃあ、自分で変えられることは何だろうか。自分はどうしたいのだろう。

またあるとき、家庭と両立している女性マネージャーが雑誌でクローズアップされているのを見て悲しくなった自分に気がついた。「女性だから、マネージャーでも十分って言いたいの?」と思ってしまった。もっと、家庭と両立しながら大企業の役員クラスで働く女性が普通な社会にしたい。もともと、性別というものをあまり意識してこなかったし、私自身は今も気にしているわけではないけれど、外から見て「女性でもこんな働き方をしている人がいるんだ」と思ってもらえるなら。そういう意味で、女性ということを急激に意識するようになった。そして、そういう活躍を目指すポジションとしては、私のようなスタンスが合致しているのではないかと思ってしまったのである。

やりたいことをやる、そのための、資格

ジョブスのConnecting Dotsの話を最初に聞いたとき、非常に感銘を受けた。当時、恩師にいただいた「今、一番やろうと思うことをしなさい。それが一番、後悔しない方法だから」という言葉をモットーにして4-5年ほど経った頃だったが、自分に正直に、やりたいことをやるということに対して、理由付けがひとつ増えたような感じだった。

もうひとつ、大学3年次に合格・内定獲得後、改めて自己分析をしていた頃に受けた「自分を壊されるのが怖いんじゃないの?」という一言も大きかった。自分を全部他人に対して開放しても、自分のコアは変わらないし、簡単に壊されてしまうようなものではないということに気付いた。自分は自分。自分の気持ちに正直でいたいと思った。

公認会計士の資格を持つことについて、一時期は資格に頼りたくないとも思ったが、今は肯定的に考えている。「所詮、1年目」・・・相手にそう思われたとしても、それでもそれなりに話を聞いてもらえるのは、やはり資格の力なのだろうと実際に感じたことがある。それは社会の諸先輩方からすれば至極当然の話で、3年目、5年目になったところでたいして変わりはないだろうと思うと、やりたいことが制限されずにすむために、やはり資格の力を借りようと思った。やりたいことをやるための手段になるということに納得できたというべきだろうか。

この負けず嫌いと、好奇心というコアに正直に。それが自分をどこに連れて行ってくれるのかはまだわからないけれど、自分の成長を楽しめる場所を作りながら、探しながら、今後も精進していきたいと思う。

今野　健志
法学部3年在学中

福沢先生の教えを胸に公認会計士として

平成24年度の論文式試験の合格発表から2か月半、学校の後期試験を無事に終えたところでこの文を書かせていただいております。

私は現在大学の法学部政治学科に在籍しております。私が政治学科に身を置きながら会計士を志した理由は、学問というのはそれほど明確に分野ごとに隔たりがあるわけではなく、意外なところでつながったり、考える材料になる場合があり、それを見つけるのも面白いと考えたからです。政治学科で会計士試験を通ったというのは慶應では珍しいことでもなく、私の周りにも何人か同学科から合格した友人がいます。これも先生方が、個別の知識を身に着けさせるような授業ではなく、あらゆる基礎である考えるということを強調した授業を行っているからだと思います。残された大学生活の残り一年、このような先生方のご鞭撻を賜ることが出来ることは誠に幸運であり、さらに自らの思考力に磨きをかけたいと考えております。

今回は僭越ながらこの場を借りて、大学の授業で扱った内容とつなげてこれから私達新人が考えなければならない問題について検討したいと考えております。

大学の授業において、政治思想家としての福沢諭吉先生について勉強いたしました。私たちはこれから慶應義塾大学を卒業し、社会人として、また会計士として独立しなければなりません。その独立するということを福沢先生の考えた独立を参考にしていきたいと思います。

「一身独立して一国独立す」、福沢先生が著書『学問のすゝめ』において述べられた一節であります。当時、福沢先生は西洋列強の脅威に対して、日本がいかに独立を達成すべきであるかを考えておられました。その答えの一つがこの言葉に込められていると思います。

まず第一に独立の気概を持ち、自分の運命を国家の運命と重ね合わせることのできるものでないと、国家のことを真剣に考えない。第二に「独立の気力なきものは必ず人に依頼する、そして人に依頼する者は必ず人を恐れる、人を恐れるものは必ず人にへつらう。外国と交際する今日、こういう人は大いに有害である。第三に、自分の力に自信がなければ、自分の力で権利を実現するのではなく、他人の力を借りて実現しようとする。このように福沢先生は3点から、独立心こそ国家の独立の基礎であると論じたのであります。

では福沢先生にとって国家の独立と結びつくほど重要な個人の独立とはどのようなことを指すのでしょうか。晩年先生が著された『修身要領』には以下のように述べられてあります。

第一に「人は人たるの品位を進め智徳を研ぎ澄ますその光輝を発揚するを以て修身処世の要領と為し、これを服膺して人たる本文を全うすべきものなり」と述べられてあり、独立自尊が主題であることが述べられてあります。

第二に「心身の独立を全うし自らその身を尊重して人たるの品位を辱めざる者、これを独立自尊の人という」

第三に「自ら労して自ら食うは人生独立の本源なり。独立自尊の人は自労自活の人たらざるべからず」

第四に「身體を大切にし健康を保つは人間生々の道に缺く可らざるの要務なり常に心身を快活にして苟めにも健康を害するの不養生を戒む可し」

第五に「天壽を全うするは人の本分を盡すものなり原因事情の如何を問はず自から生命を害するは獨立自尊の旨に反する背理卑怯の行爲にして最も賤む可き所なり」

第六に「敢爲活溌堅忍不屈の精神を以てするに非ざれば獨立自尊の主義を實にするを得ず人は進取確守の勇氣を缺く可らず」

第七に「獨立自尊の人は一身の進退方向を他に依頼せずして自から思慮判斷するの智力を具へざる可らず」

以上が福沢先生が考えた個人の独立自尊であります。

福沢先生のこの教えを胸に独立した個人として公認会計士三田会に積極的にかかわり、微力ではございますが、会の発展に貢献していきたいと考えております。先輩方、どうぞご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

《公認会計士試験の状況　平成24年度》
連続38年間、合格者数首位を堅持

平成24年公認会計士試験は、平成24年11月12日に合格者が発表されました。

平成24年の公認会計士試験は、願書提出者総数17,894人、論文式受験者数3,542人、最終合格者数1,347人となっています。合格率は7.5%でした。このうち、慶應義塾出身の補習所登録者数は161人であり、2位早稲田の109人に52人の差で首位となりました。これにより、慶應義塾は旧試験制度から38年間連続して、公認会計士試験の王座を獲得しました。

今後も合格者数首位を目指して、塾出身の受験者の確保と合格率上昇のためのバックアップを一層強化できるよう、関係各位のご協力をお願い申し上げます。

【平成24年公認会計士試験の概要　短答式試験受験者等対象】

願書出願者総数	17,894人（前年22,773人）
短答式合格者数	1,274人（前年2,231人）
最終合格者数	1,347人（前年1,447人）
合格率	7.5%（前年6.4%）

【主な大学の合格者数（公認会計士三田会調べ）】

慶應義塾 161名、早稲田 109名、中央 99名、明治 63名、同志社 49名、法政 38名、立命館 30名、神戸 29名、青山学院 29名、東京 28名

以上

公認会計士第2次試験及び公認会計士試験　大学・年度別合格者数一覧表

公認会計士三田会調べ

年次＼順位		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
1	昭和45年度（1970）	慶應義塾 39	中央 29	早稲田 26	東京 12	一橋 9	明治 9	神戸 8	同志社 8	横浜国立 7	関西 4
2	昭和46年度（1971）	中央 51	早稲田 38	慶応義塾 28	明治 22	横浜国立 14	東京 8	神戸 8	同志社 7	京都 5	大阪市立 4
3	昭和47年度（1972）	慶應義塾 48	中央 47	早稲田 32	明治 17	東京 13	神戸 11	京都 10	一橋 9	横浜国立 6	同志社 5
4	昭和48年度（1973）	慶應義塾 42	早稲田 30	明治 18	中央 16	一橋 11	東京 9	日本 8	法政 5	横浜国立 2	立教 1
5	昭和49年度（1974）	中央 65	慶応義塾 61	早稲田 42	明治 25	東京 10	一橋 8	横浜国立 8	法政 7	立教 5	－
6	昭和50年度（1975）	慶應義塾 32	早稲田 22	中央 16	明治 16	東京 9	日本 6	法政 5	一橋 3	－	－
7	昭和51年度（1976）	慶應義塾 50	早稲田 44	中央 29	明治 28	一橋 14	日本 8	法政 6	横浜国立 6	立教 6	東京 5
8	昭和52年度（1977）	慶應義塾 45	早稲田 44	明治 30	中央 26	一橋 13	日本 7	東京 6	法政 6	立教 6	横浜国立 5
9	昭和53年度（1978）	慶應義塾 39	早稲田 37	中央 34	明治 13	一橋 6	法政 6	東京 5	横浜国立 5	立教 3	日本 2
10	昭和54年度（1979）	慶應義塾 36	早稲田 29	中央 23	明治 14	一橋 9	法政 8	東京 5	横浜国立 5	立教 5	日本 5
11	昭和55年度（1980）	慶應義塾 30	早稲田 30	中央 27	明治 17	一橋 9	横浜国立 8	法政 5	東京 3	立教 3	－
12	昭和56年度（1981）	慶應義塾 26	早稲田 24	中央 20	明治 13	一橋 10	横浜国立 7	東京 6	法政 6	日本 3	立教 2
13	昭和57年度（1982）	慶應義塾 26	早稲田 18	明治 16	横浜国立 14	中央 11	一橋 8	東京 5	法政 4	立教 4	日本 1
14	昭和58年度（1983）	慶應義塾 39	早稲田 34	中央 20	明治 19	横浜国立 9	法政 8	一橋 8	東京 5	立教 5	日本 2
15	昭和59年度（1984）	慶應義塾 54	早稲田 40	中央 27	明治 20	一橋 12	横浜国立 11	東京 8	法政 6	日本 6	立教 3
16	昭和60年度（1985）	慶應義塾 53	早稲田 36	中央 21	明治 19	一橋 13	法政 12	横浜国立 10	日本 9	東京 9	立教 2
17	昭和61年度（1986）	慶應義塾 63	早稲田 56	中央 40	明治 28	一橋 12	横浜国立 12	東京 14	法政 13	日本 14	立教 4
18	昭和62年度（1987）	慶應義塾 68	早稲田 49	中央 36	明治 27	一橋 15	横浜国立 15	東京 13	法政 7	日本 7	立教 5
19	昭和63年度（1988）	慶應義塾 68	早稲田 45	中央 38	明治 23	一橋 18	東京 13	法政 13	横浜国立 10	日本 6	立教 2
20	平成元年度（1989）	慶應義塾 108	早稲田 67	中央 35	明治 35	東京 26	一橋 18	法政 12	立教 12	日本 11	横浜国立 9
21	平成2年度（1990）	慶應義塾 111	早稲田 78	中央 46	明治 36	一橋 24	東京 21	横浜国立 18	法政 15	立教 9	日本 8
22	平成3年度（1991）	慶應義塾 108	早稲田 101	中央 50	明治 45	一橋 32	東京 28	横浜国立 14	法政 10	日本 8	立教 11
23	平成4年度（1992）	慶應義塾 126	早稲田 110	一橋 46	中央 41	東京 40	明治 36	法政 24	横浜国立 19	立教 14	日本 5
24	平成5年度（1993）	慶應義塾 109	早稲田 98	中央 46	東京 45	一橋 36	明治 32	法政 13	横浜国立 19	立教 8	日本 15
25	平成6年度（1994）	慶應義塾 140	早稲田 102	東京 57	一橋 37	中央 29	明治 27	横浜国立 19	法政 14	立教 10	日本 4
26	平成7年度（1995）	慶應義塾 134	早稲田 134	中央 41	東京 39	一橋 27	明治 22	横浜国立 15	法政 11	日本 8	立教 8
27	平成8年度（1996）	慶應義塾 115	早稲田 95	中央 39	一橋 38	東京 34	明治 23	横浜国立 22	法政 14	日本 11	立教 4
28	平成9年度（1997）	慶應義塾 115	早稲田 85	中央 38	東京 33	一橋 26	明治 24	横浜国立 19	法政 14	立教 12	日本 8
29	平成10年度（1998）	慶應義塾 119	早稲田 97	中央 34	東京 29	明治 28	一橋 21	横浜国立 14	法政 13	日本 12	立教 9
30	平成11年度（1999）	慶應義塾 133	早稲田 88	中央 47	東京 47	一橋 35	明治 27	法政 23	横浜国立 21	日本 12	立教 11
31	平成12年度（2000）	慶應義塾 136	早稲田 90	中央 60	東京 50	一橋 35	明治 35	法政 23	立教 18	横浜国立 16	日本 13
32	平成13年度（2001）	慶應義塾 155	早稲田 134	東京 68	中央 59	一橋 47	明治 42	横浜国立 22	日本 13	法政 11	立教 11
33	平成14年度（2002）	慶應義塾 183	早稲田 140	中央 94	東京 75	一橋 54	明治 39	横浜国立 23	法政 22	立教 21	日本 16
34	平成15年度（2003）	慶應義塾 228	早稲田 152	東京 78	中央 76	一橋 71	京都 49	同志社 48	神戸 47	明治 45	大阪 37
35	平成16年度（2004）	慶應義塾 208	早稲田 153	東京 93	中央 76	神戸 62	明治 60	同志社 56	一橋 56	京都 50	立命館 40
36	平成17年度（2005）	慶應義塾 209	早稲田 159	中央 106	東京 61	一橋 51	同志社 48	神戸 43	明治 40	関西学院 40	京都 37
37	平成18年度（2006）	慶應義塾 224	早稲田 146	東京 73	一橋 69	中央 64	明治 55	同志社 49	京都 48	神戸 38	関西学院 35
38	平成19年度（2007）	慶應義塾 411	早稲田 293	中央 150	明治 105	神戸 105	同志社 102	東京 99	一橋 94	京都 73	立命館 71
39	平成20年度（2008）	慶應義塾 375	早稲田 307	中央 160	東京 114	明治 110	同志社 102	一橋 93	立命館 85	神戸 83	京都 82
40	平成21年度（2009）	慶應義塾 258	早稲田 247	中央 159	東京 84	明治 72	一橋 56	関西学院 56	神戸 52	同志社 52	法政 49
41	平成22年度（2010）	慶應義塾 251	早稲田 221	中央 152	明治 98	東京 67	同志社 62	立命館 57	神戸 49	関西学院 46	京都 45
42	平成23年度（2011）	慶應義塾 210	早稲田 169	中央 96	明治 83	立命館 52	京都 47	一橋 46	東京 44	同志社 38	関西学院 36
43	平成24年度（2012）	慶應義塾 161	早稲田 109	中央 99	明治 63	同志社 49	法政 38	立命館 30	神戸 29	青山学院 29	東京 28

総会報告

平成24年3月26日午後5時30分から銀座の交詢社において、公認会計士三田会総会を開催しました。総会におきましては、まず平成23年度会務報告が実施されました。会務報告では、本年度事業報告、次年度事業計画、公認会計士試験合格状況、会報発刊についての報告がされました。続いて、会計報告、監査報告が行われ、無事に決算が承認されました。また新幹事選任では三根大介氏(H9年卒)が異議なく選任されました。役員につきましても候補者の記載通りに選任が行われ、新たに米田惠美氏(H18年卒)が副会長に選任されました。

冬季研修会

総会に引き続き、午後6時から研修会を開催しました。

講師に日本公認会計士協会常務理事の関川正氏をお迎えして、テーマ「動き出す地方自治体の会計・監査改革～会計士は今、何をすべきか～」についてご講演いただき、皆真剣に聞き入っておりました。

総会懇親会・新人歓迎会

研修会終了後午後7時から懇親会・新人歓迎会を開催しました。

会長の佐竹正幸氏の開会のあいさつで始まり、来賓に経済学部長の中村慎助氏と商学部長の樋口美雄氏をお迎えして、お言葉を頂戴しました。

例年通り慶應義塾は大学別の公認会計士合格者数でトップに輝き、この日も新しく我々の仲間となった50名あまりの新人ひとりひとりを紹介しました。最後に締めくくりとして全員で若き血を歌いお開きとなりました。

多くの参加者が二次会にも参加し、三田倶楽部、BRBの二手に別れ深夜まで懇親を深めました。

秋季研修会・懇親会報告

平成24年10月17日午後6時30分より、慶應義塾大学三田校舎北館ホールにおいて、公認会計士三田会秋季研修会を開催しました。当日は悪天候であったにもかかわらず、非常に多くの会員が参加して下さりました。

本年度の研修会の講師は、参議院議員の古川俊治氏をお招きしました。古川氏は慶應義塾大学法科大学院教授、医学部外科教授であり、またTMI総合法律事務所において弁護士としてもご活躍されており、「公認会計士に関わる政策の動向について」というテーマでご講演いただきました。

研修会終了後は午後7時30分より、南校舎カフェテリアへと場を移し、懇親会が行われました。南校舎は新設された校舎であり、例年と異なる会場での開催となりました。会計士三田会創設者の一人、宇野皓三氏より乾杯の音頭をとっていただき、創設時の苦労話に会員一同聞き入っておりました。懇親会では、年代を問わず談笑する姿が見られ、三田会の良さを再確認しました。

歓談後は恒例の若き血斉唱で締め、有志は三田の街に繰り出し二次会、三次会を行ったようです。

ゴルフ報告 「大学対抗で慶應が初優勝！！」

2012年8月26日 三田会ゴルフ 豊里ゴルフクラブにて

高温多湿と戦う毎年の三田会ゴルフ、暑い寒いと文句が多い会員も、黙って耐える真剣勝負になりました。

優勝は、ゴルフ部監督小坂義人君、準優勝にはこの日ベストグロス77をマークした李明熙君が入りました。

今年から新たに参加した元体育会ゴルフ部主将は、比類無い飛距離を見せつけ、周囲を唖然とさせました。

来年は多くの人に参加してもらいたいです。お申し込みは事務局へ。

2012年9月15日　公認会計士早慶ゴルフ対抗戦　取手国際ゴルフクラブにて

よくぞ来たれり、好敵早稲田!

恒例の早慶ゴルフ対抗戦は、好天のもと取手国際ゴルフ倶楽部で開催されました。

近年、若手を増やす慶應にチャンスありと、密かに思っておりましたが、前半9ホール終了時点で、僅かのリードに過ぎず、各選手緊張した午後のプレーを行いました。

上がってみれば、チーム戦はどちらから計算しても慶應の勝利!

後半エース増田航君がいつもの調子を取り戻し、ステディに耐えた佐藤勝君、柳澤義一君らの健闘が光りました。

ネット優勝は柳澤義一君、ベストグロスを増田航君が獲りました。

▲ 落胆する早稲田一同

2012年10月13日　公認会計士ゴルフ十月会ー大学対抗戦ー　むらさきカントリークラブにて

陸の王者慶應が悲願の初優勝!!とうとうやりました!

第25回を迎える大学対抗ゴルフ王者決定戦「十月会」において、とうとう慶應が優勝しました。

ハンディキャップ控除後のネットの部では、李明熙君、吉島一良君、佐竹正幸君、高濱朋弘君の上位4名の合計スコアが2位立教を4.6ストローク上 回り優勝しました。昨年2位に甘んじたグロスの部では、佐藤勝君、小坂義人君、増田航君、高濱朋弘君の上位4名のスコアは、77,78,78,79の平均78で、2位早稲田 の79.5ストロークを上回り優勝しました。個人の部では、小坂義人君が西コースのベストグロスに輝き、杉山美代子君も女子優勝となりました。

完全優勝のこの勝利、出場選手の一部は早稲田の打ち上げにて、お祝いをしていただいたそうです。この場にても、お礼申し上げます。

さて、今年は幹事校となりました。皆様のご参加をお待ちしています。

役員一覧

役職	卒業年度	氏名
会長	S46年卒	佐竹 正幸
副会長	S51年卒	山田 辰己
副会長	S53年卒	小坂 義人
副会長	S56年卒	後藤 順子
副会長	H18年卒	米田 惠美
幹事	S47年卒	野辺地 勉
幹事	S47年卒	河原 茂晴
幹事	S48年卒	藤田 則春
幹事	S49年卒	梶川 融
幹事	S50年卒	桃崎 有治
幹事	S51年卒	新田 誠
幹事	S51年卒	徳永 信
幹事	S52年卒	小見山 満
幹事	S52年卒	池上 玄
幹事	S52年卒	佐藤 行正
幹事	S53年卒	沼田 徹
幹事	S54年卒	柳澤 義一
幹事	S55年卒	市村 清
幹事	S55年卒	森 公高
幹事	S55年卒	永田 高士
幹事	S56年卒	金井 沢治
幹事	S56年卒	澤田 尚史
幹事	S57年卒	関口 弘和
幹事	S57年卒	篠原 真
幹事	S58年卒	油谷 成恒
幹事	S58年卒	上林 三子雄
幹事	S58年卒	山田 雅弘
幹事	S59年卒	澤口 雅昭
幹事	S59年卒	大塚 敏弘
幹事	S61年卒	奥村 始史
幹事	S61年卒	海野 隆義
幹事	S61年卒	今村 友妃子
幹事	S61年卒	加藤 達也
幹事	S61年卒	関川 正
幹事	S62年卒	安藤 武
幹事	S62年卒	要石 博之
幹事	S62年卒	上倉 要介
幹事	S63年卒	佐藤 裕紀
幹事	S63年卒	田中 耕一郎
幹事	S63年卒	岡谷 直人
幹事	S63年卒	中村 元彦
幹事	S63年卒	岡田 貴子
幹事	H1年卒	菅野 雅子
幹事	H1年卒	阪田 大門
幹事	H1年卒	吉田 慶太
幹事	H2年卒	高橋 克典
幹事	H3年卒	志賀 恭子
幹事	H5年卒	荒張 健
幹事	H5年卒	百瀬 和政
幹事	H5年卒	古内 和明
幹事	H6年卒	菅谷 圭子
幹事	H8年卒	吉川 高史
幹事	H8年卒	長尾 宗尚
幹事	H9年卒	古賀 智彦

役職	卒業年度	氏名
幹事	H9年卒	篠崎 友宏
幹事	H9年卒	三根 大介
幹事	H10年卒	江幡 淳
幹事	H12年卒	緒方 浩一
幹事	H12年卒	後藤 昌子
幹事	H12年卒	三好 巧
幹事	H13年卒	齊藤 慶三
幹事	H13年卒	本多 守
幹事	H14年卒	小松 浩幸
幹事	H14年卒	高山 大輔
幹事	H15年卒	根建 栄
幹事	H15年卒	吉田 勇太
幹事	H15年卒	荻野 尚武
幹事	H15年卒	小川 雅嗣
幹事	H15年卒	野池 毅
幹事	H15年卒	藤本 ひかり
幹事	H15年卒	濱 貴之
幹事	H15年卒	双木 宏
幹事	H15年卒	荒井 悠己
幹事	H16年卒	並木 俊朗
幹事	H16年卒	和田 拓郎
幹事	H17年卒	門田 美由紀
幹事	H17年卒	渋佐 寿彦
幹事	H17年卒	荒井 是憲
幹事	H18年卒	天野 真衣
幹事	H18年卒	清水 麻奈美
幹事	H19年卒	幡野 裕明
幹事	H20年卒	中谷 恵理子
幹事	H20年卒	清水 陽一郎
幹事	H20年卒	佐藤 拓路
幹事	H22年卒	渡部 亮
幹事	H23年卒	今野 洋
幹事	H23年卒	芝 由里子
幹事	H23年卒	田中 隆寛
幹事	H23年卒	高野 阿弓
幹事	H23年卒	清水 裕文
幹事	H23年卒	大西 佐和
幹事	H23年卒	津田 覚
会計監事	S52年卒	山崎 博行
会計監事	H14年卒	黒澤 久美子

役職	卒業年度	氏名
年度世話人	S59年卒	澤口 雅昭
年度世話人	S59年卒	大塚 敏弘
年度世話人	S59年卒	志村 さやか
年度世話人	H6年卒	菅谷 圭子
年度世話人	H6年卒	松本 憲明
年度世話人	H6年卒	関 浩一郎
年度世話人	H6年卒	石原 宏司
年度世話人	H6年卒	石川 航史
年度世話人	H6年卒	曽宮 啓介
年度世話人	H6年卒	松浦 竜人
年度世話人	H16年卒	並木 俊朗
年度世話人	H16年卒	門澤 麻里
年度世話人	H16年卒	上平 洋輔
年度世話人	H16年卒	新井 佑介
年度世話人	H16年卒	佐藤 彩子
年度世話人	H16年卒	英 正樹
年度世話人	H16年卒	齊藤 啓太郎
新人世話人	H18年卒	吉川 惠理
新人世話人	H21年卒	宮山 韓知
新人世話人	H21年卒	善林 優子
新人世話人	H23年卒	渡邊 三南子
新人世話人	H23年卒	奥山 健人
新人世話人	H24年卒	富取 祐香
新人世話人	H24年卒	神原 大樹
新人世話人	H24年卒	徳田 華子
新人世話人	H24年卒	矢島 淳太郎
新人世話人	H24年卒	藤野 里奈
新人世話人	H24年卒	韮澤 一平
新人世話人	H24年卒	菅原 晃介
新人世話人	H24年卒	細野 光史
新人世話人	在学中	田宗 千明
新人世話人	在学中	浦山 太貴
新人世話人	在学中	濱田 浩介
新人世話人	在学中	井上 大輔
実行委員	H20年卒	土井 さやか
実行委員	H22年卒	上田 彩夏
相談役	S25年卒	西谷 誠一
相談役	S26年卒	向山 清志
相談役	S30年卒	村山 徳五郎
相談役	S34年卒	森重 榮
相談役	S36年卒	野田 晃子
相談役	S41年卒	石井 清之
相談役	S42年卒	青木 雄二
相談役	S42年卒	一法師 信武
相談役	S42年卒	杉山 美代子
相談役	S43年卒	湯佐 富治
相談役	S45年卒	山田 幸太郎
相談役	S49年卒	加藤 晶春

公認会計士三田会・会則

制定　昭和52年 9月 1日
改正　昭和55年 1月21日
改正　昭和58年 1月10日
改正　昭和61年 1月17日
改正　平成15年 1月29日
改正　平成15年12月 4日
改正　平成20年 1月30日
改正　平成23年12月14日

第1章　総　則

（名　称）
第1条　本会は、公認会計士三田会と称する。

（目　的）
第2条　本会は、会計及び監査に関する学術の研究、会員の知識及び経験の交流、業務の協調、会員相互の親睦並びに後進の指導育成等を図ることを目的とする。

（事務所）
第3条　本会の事務所を、幹事会の指定する場所に置く。

（事　業）
第4条　本会は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

1、会計及び監査の実務、学術等に関する研究会、講演会等の開催
2、内外の資料の調査、研究
3、業務情報の交換
4、会報その他刊行物の発行
5、その他前各号に附帯する事業

第2章　会　員

（会　員）
第5条　慶応義塾に在学した者で、公認会計士、会計士補、これらの有資格者及び公認会計士試験合格者をもって会員とする。

第3章　役　員

（会長、副会長、幹事）
第6条　本会に、会長、副会長、幹事を置く。会長は1名とし、副会長、幹事は若干名とする。

（会計監事）
第7条　本会に、会計監事2名を置く。

（相談役）
第8条　本会に、相談役を置くことができる。

（幹事及び会計監事の選出並びに任期）
第9条　幹事及び会計監事は、会員のうちから定時総会において選出する。
2、幹事及び会計監事の任期は、定時総会のときから始まって、就任後第2回目の定時総会終了のときまでとする。

（会長、副会長、相談役の選任）
第10条　会長、副会長は、幹事の互選により選出する。相談役は、会長が指名する。

第4章　総　会

（総会の種類）
第11条　総会は、定時総会及び臨時総会とする。

（総会の開催）
第12条　定時総会は会計年度終了後5ケ月以内に、臨時総会は必要に応じ、幹事会の議を経て会長が招集する。

第5章　会　計

（会　費）
第13条　本会の経費は、会費、臨時会費及び寄附金をもってこれに当てる。
2、会費は、公認会計士は年額10,000円、会計士補ならびに公認会計士試験合格者は3,000円とする。なお、公認会計士のうち近年に卒業した会員に対して会費を一部減額することを認め、その取扱は幹事会にて決定する。
有資格者の会費については、これに準ずる。

（会計年度）
第14条　本会の会計年度は、毎年1月1日に始まり、12月31日に終わる。

第6章　会則の変更

（会則の変更）
第15条　会則の変更は、総会の決議による。

（附　則）
この会則は、昭和52年9月12日から施行する。

（附　則）（平成20年1月30日改正）
第5条、第12条、第13条の改正は、第31事業年度より適用する。

（附　則）（平成23年12月14日改正）
第14条の改正は、第36事業年度より適用する。

www.cpa-mitakai.net

公認会計士三田会会報【第37号】
（平成25年3月1日発行　昭和53年1月1日創刊）

編集発行　公認会計士三田会
佐藤裕紀　渋佐寿彦　米田恵美

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-5-1 霞が関IHFビル3F
佐藤裕紀公認会計士事務所内
電話：03-6852-6852　FAX：03-6852-6853
E-mail：sec@keiocpa.com